

# コロナ時代の 新人2期生を 迎えて



## はじめに

今年の新人は、新型コロナで学生時代の大切な2年間の対面授業や臨床実習に大きな影響が出た、まさにコロナ時代の新人2期生と言えます。十分な実習が出来ず、臨床現場に上手く入っていきけるかどうか、心配している新人も多いのではないかと思います。近森会グループ(以下、近森)では入職してから充実した研修体制を取っているため、安心してチームの一員になるよう頑張ってください。

## コロナ禍の影響以上に激変する 高知の地域医療

日本の医療は高齢化と医療の高度化で、手間のかかる高齢患者が増えたことで業務量が増えるとともに、高い医療の質が求められるようになり、医師はじめ医療専門職の充実と医療レベルの限らない向上が求められるようになりました。

さらには診療報酬改定の度に重症度、医療・看護必要度が厳しくなり、7:1の看護師数さえ揃えていれば診療報酬が入ってくるストラクチャー評価から、必要な業務すべてを行い、重症の患者さんを数多く集め、早く治して、自宅へ帰さないで7:1の診療報酬が入ってこないアウトカム評価に大きく変わってきています。

そのため、新型コロナの感染症も加わり、高知県でも急性期基幹病院の在院日数は年々短くなり、稼働率が低下したことで空床が増え、急性期基幹病院に急激に患者さんが集まるようになっていきました。5年前には一般急性期病院で100床以上の病院は16病院あり

ましたが、現在は11病院、実質8病院とわずか5年間で半分になってしまいました。慢性期医療の介護療養病棟は2,600床が介護医療院という施設にほぼ転換しましたし、病院や診療所の廃院も多く、高知市内でも建物が壊されマンションなどに変わっている姿があちこちで見られるようになりました。

このことは皆さんの働く医療現場が限られてくることを意味しており、近森は専門性の高い医療人に成長するための環境が整った、高知でも限られた職場であると言えます。

## チーム医療で いきいきとやりがいを持って働こう

現在、医師の働き方改革で医師の長時間労働が出来なくなり、大学病院や国公立病院で行われている医師、看護師だけで医療を行う少数精鋭の医療ではやっていけなくなっています。医師が医師しか出来ない業務、看護師が看護というコアの業務に絞り込み、医療の質と労働生産性を上げ、薬剤師やリハビリスタッフ、管理栄養士、臨床工学技士、メディカルソーシャルワーカー、歯科衛生士といった医療専門職とチームで医療を行う、多職種による多数精鋭の病棟常駐型チーム医療でなければこれからの医療は出来なくなっています。

皆さんが入職された近森は質、量ともに全国一のチーム医療を展開している病院です。このようなすばらしい職場で専門性を高め、患者さんにとっていい医療が実践できるスタッフに成長して下さい。

## 地域で患者さんを支えよう

近森は、高度急性期から急性期、回復期リハビリ、在宅サポートと県民、市民が生命にかかわる病気にかかっても早く治して、障害が残ればリハビリで可能な限り住み慣れた地域に帰っていただくよう、グループ全体で努力してきました。

さらには、病状が落ち着けば、かかりつけの先生方に逆紹介して地域で診てもらい、悪くなればまた近森へ紹介していただくという地域医療連携を20年以上も前から徹底して実践し、長年にわたり地域の先生方と共に患者さんを支え続けてきました。

## さいごに

近森は医師、看護師ばかりでなく、医療専門職や事務、クラーク、アテンダント、清掃のスタッフに至るまで、みんなで患者さんに早く良くなって住み慣れた地域に帰ってもらおうと心を一つにして働いている素晴らしい職場です。「コロナ時代の新人だから、さすが!!」とみんなから評価されるよう頑張ってください。そして、医療人というやりがいのある仕事を通じて人間性を高め、皆さんの人生がいきいきと充実したものになることを祈っています。

社会医療法人 近森会 理事長  
近森 正幸

